

六月一日

七時過より世田谷村で北京M計画B案のスケッチ。抑制した案も作っておこうと始めた。十時下の畑を点検して世田谷村を発つ。他人の家や、車中からまだ残されている畑の作物の様子がやたらと気になり始めた。十時半府中。八大建設西山さんと国分寺O邸へ。十二時修了。新宿駅、福豊で冷し中華ゴマだれの昼食。十四時前研究室。アベル、高橋等と朝のスケッチを基にモデル製作。十六時過完了。すぐに模型写真撮影。明日には北京にメールで送る事ができるだろう。色んな道具の進歩で仕事の速力が速くなったので、それなりの新しい体力が必要になった。

十九時新大久保駅前近江屋ソバ店で若松 社長と会う。建築家も大変シンドイ社会的状況だけど、今を盛りのIT屋さんも大変なのだ。ITビジネスはつきつめて勝ち負けを考えるとすれば一人、一社しか生き残れない。それがITビジネスの宿命だ。若松氏の会社は今、日本で五、六番目のITビジネスカンパニーであるから、生き残りに必死の努力をついやしている。相通ずるところがある。モスクワのビジネスの話しを聞く。唐突ではあるが、私の研究室の蔡さんをモスクワの、一九一七年に建てられて若松氏がリノベーションして複合施設にしようとして試みている仕事のビジネススマネージャー及びプランナーとして就業させてみようという突然決意し、若松氏にいきなり申し出る。何とかなりそうなので、明日、蔡さんに話してみようと思う。勿論、蔡さんはまだ何も知らない。二十二時前世田谷村に戻る。南の生垣のすき間から、自

分で作った自称あぜ径、現実はずただの小径を数歩たどり、先日、そこに移動させた、2×4材で三十五年前に自分一人で製作した実に重い椅子に、暗闇の中、しばし腰かけて、憮然とした時間を過ごす。何の明かりもない樹々の暗闇が、自分が昔作った椅子に腰かけて眺め渡すと、何か妙に物言いたげである。マ、ほんの数歩の広さの暗闇なのだが、それが何やら貴重なモノのような気がするから不思議だ。熊谷守一は後半生池袋のうっそうとした森のような、八十坪の土地を持つ家から一歩も足を踏み出そうとしなかつたらしい。それで、あんな、どうでも良い様な、けれどもいい感じの絵を沢山残した。八十坪の土地が世界だったのだな。もつと、年をとつたらそんな生き方ができるような準備はしておいた方が良さそうだ。